

KJQ.PAPER

# 〈心の基礎〉リサーチ

第4号

2014 July

〈心の基礎〉教育を学ぶ会メンバー

会長 菅野 純 綿井雅康 加藤陽子 藤井 靖 桂川泰典 原口和博 中村 有

発行人 〈心の基礎〉教育を学ぶ会 事務局長 萩地一夫

事務局 株式会社実務教育出版 〒163-8671 東京都新宿区新宿1-1-12 TEL 03-3355-0921 kjq@jitsumu.co.jp

## 研究会レポート

# 〈心の基礎〉教育を学ぶ会 第2回研究会

～『KJQマトリックス』を活用し、考える 《後編》高等学校のケースをもとに～

### 「〈心の基礎〉教育を学ぶ会 第2回研究会」

(2013年8月23日、実務教育出版セミナールームにて開催)では「ケース検討会」を行い、『KJQマトリックス』のデータの見方のポイント、指導への生かし方について実践的に学びました。

中学校のケース検討を報告した前号に引き続き、今号では高等学校の「ケース検討会」の様子をレポートします。

#### プログラム

司会・進行／十文字学園女子大学教授 綿井雅康

13:00～13:50 (50分)

#### ●基調講演 〈心の基礎〉教育のためのKJQ活用について

〈心の基礎〉教育を学ぶ会会長 早稲田大学教授 菅野 純

14:00～16:45 (165分)

#### ●ケース検討会

14:00～15:35 (95分) ●第1部 中学校

[ケース報告者] 東京都私立中学校養護教諭 猪又由加

[ケース検討者] 十文字学園女子大学准教授 加藤陽子  
岡山大学専任講師 桂川泰典

15:45～16:45 (60分) ●第2部 高等学校

[ケース報告者] 群馬県立安中総合学園高等学校教諭 吉田真弓

[ケース検討者] 加藤陽子  
早稲田大学助教 藤井 靖

16:45～17:30 (45分)

#### ●発展講演 生徒の心をみる眼差し、ともに歩む姿

菅野 純

「〈心の基礎〉教育を学ぶ会」は、『KJQマトリックス』の開発者と学校の現場にいらっしゃる先生方との研究会です。子どもたちが学校生活の中で伸び伸びと学習し、人間関係を築きあげ、社会性を確立するための根元となる〈心の基礎〉を共に学び合うことを目的とし、継続的な研究会、会報の発行を行っています。志のある方であれば、どなたでも参加可能です。



※所属は研究会当時のもの

第2部では、高等学校の個人ケースを中心に、『KJQマトリックス』をどのように読み解き、指導に生かすかという観点から考察が行われました。

ケース報告者

群馬県立安中総合学園高等学校教諭  
吉田真弓先生

ケース検討者

十文字学園女子大学准教授 加藤陽子先生  
早稲田大学助教 藤井 靖先生

## 吉田先生の報告

### 1 学校の紹介

本校は、平成18年に県立安中実業高等学校と県立安中高等学校が統合し、県内最大の総合学科高校として開校しました。文理教養（文系・理系）、芸術文化（音楽系・美術系）、生活文化（保育系・福祉系）、生物資源（農業系・園芸系）、食文化、人間健康、情報電子、メカトロニクス、情報ビジネスという9系列（13系）を開設し、生徒の多様なニーズに応えています。



1年次では普通科目を中心に学びながら、体験授業などに参加し、2年次以降どの系に進むのかを検討してもらいます。各自の希望を踏まえてクラス編成をし、2年次からは系列に分かれて専門的な学びを深めます。1年次から2年次への進級時にはクラス替えがありますが、2年次から3年次へ進級するときのクラス替えは基本的には行っていません。

本校には、中学校まで学校不適応だった生徒も多く、学力的に問題を抱える生徒も少なくありません。自己表現をすることが苦手な生徒が多く見受けられることも特徴です。また、残念なことに、年間30名ほどが退学など進路変更をしている現状です。

家庭状況は、ひとり親家庭が全体の4割強を占めています。

### 2 Bさんの所属するクラスの特徴

Bさんの所属する3年X組は、文系、人間健康系、美術系、音楽系の生徒から構成されています。

系別にクラス編成をした2年次は35名の生徒でスタートしましたが、4名退学し、現在は31名、校内でも一番人数が少ないクラスです。

担任は50代の男性教諭です。穏やかなタイプの教員で、元気すぎる生徒をパワーで制するよりも、温かく見守るというかかわりが主です。

X組は、活発だが問題行動も見受けられる人間健康系、マイペースな生徒が多い美術系、比較的自己主張が強い音楽系、おとなしく自己表現が苦手な文系の生徒が混在しています。人間健康・美術・音楽・理系の生徒からなる他クラスと比べ、全体に元気がなく、生徒間がバラバラな印象です。

4月に『KJQマトリックス』を実施したところ、次ページの「マトリックス」のようになりました。

「内向タイプ」群の生徒が半数以上を占め、全体に「こころのエネルギー」が低めの生徒が多いことがわかります。また、臨床尺度6項目のうち「嫌なことがあって学校を休んだことがある」に「はい」と回答した生徒が20名（64%）、「今のクラスは、いて楽しい」に「いいえ」が7名（23%）、「クラスにいて自分の居場所がないように感じる」に「はい」が5名（16%）おり、この3項目は本校内でも最も高い数値でした。

### 3 個人ケースの報告

**【Bさんの家族構成】** X組の女子Bさんは、50代の母親と双子の妹Cさんの3人暮らしです。Cさんは本校の理系に在籍。二卵性双生児の2人はあまり仲が良くなく、似ておらず、『KJQ』の結果はBさん「内向タイプ」群、Cさん「意欲タイプ」群と対照的でした（注：2人は別クラスだが、「マトリックス」にCさんの得点を○で記す）。アルバイトの関係でBさんは片道約10キロを自転車通学しているのに対し、Cさんは母親が車で迎接することが多く、Bさんは、母親は自分には厳しくCさんに甘いと感じています。

**【Bさんの学校生活】** 1年次に運動部に入部するが、人間関係などが原因で退部。クラスの女子ともうまくいかない状況でした。

2年次からは文系に在籍。クラスと一緒にいられるのは同じ文系の男子のみと孤立気味で、休み時間のたびに保健室に来室し、昼休みは保健室で先輩たちと過ごすのが日課でした。3年生が家庭学習に入ると欠席しがちになり、同じ頃に仲の良い男子が退学を意思表明すると、Bさんも担任に退学を訴えるようになり、保護者との話し合いを重ねました。

3年次になると、Bさんと仲の良い男子生徒が退学。ほぼ毎日休み時間に保健室に来て、クラスやCさんへの不満を話すようになりました。昼休みも一緒にご飯を食べる相手がないという理由で、保健室で養護教諭相手に話すか、熟睡して過ごしています。最近の悩みは進路で、2年次まではショップ店員志望でしたが、女子の先輩への憧れから美容師志望に変更。「母親も喜んでくれている」と言いつつ、迷っている様子です。口癖は「イ

ライラする」「何か良いことないかな」「東京出たい」「服欲しい」です。

**【これまでの学校の対応】** 2年から持ち上がりの担任は優しい物腰で、Bさんの言い分に耳を傾け、必要に応じて家庭と連絡を取りあつてきました。Bさんから見ると、「担任は頼りない」「担任がダメだからクラスの雰囲気が悪い」とのことです。本校の保健室には、養護教諭が複数配置されていますが、休み時間はできる限りBさんの居場所を保障し、授業などやるべきことができるよう援助し、頑張りを言葉にして認め、ほめるという方針で対応しています。

#### 4 ご検討いただきたいこと

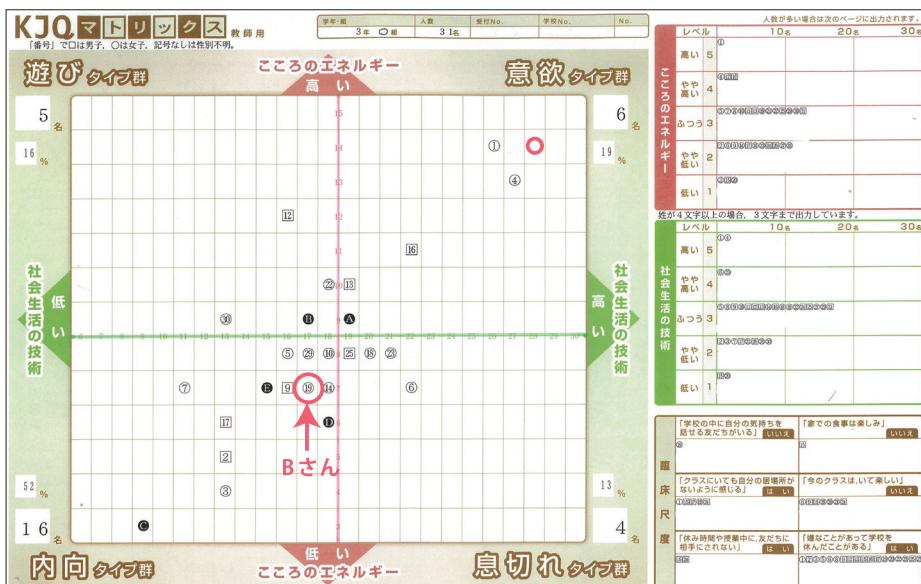
Bさんのようなタイプの生徒は、保健室では比較的よく見受けられます。高校生のうちは保健室が居場所となり、登校支援をすることでうまくいくように思いますが、卒業後が心配です。社会に送り出す前にできることは何でしょうか。

#### 〈Bさんのクラスのマトリックスシート〉

#### マトリックスの特徴

①内向タイプ群が52%を占める。

②臨床尺度に該当する生徒が多い。



○は女子を、□は男子を、○や□の中の数字は出席番号を表す。

●は複数の児童生徒が同じ位置にあることを示す。

#### 見方のコツ!

あるタイプ群に集中している場合は、その群をさらに4象限に分け、個々の児童生徒の「こころのエネルギー」と「社会生活の技術」の違いを把握するとよい。

## 5 加藤先生のケース検討

Bさんのようなタイプの生徒は、まず本人のよさを最大限に認め、生かし「こころのエネルギー」をチャージしていくことが大切です。



吉田先生の報告にありましたように、Bさんはアルバイトに熱心で、片道10キロの自転車通学を続けています。その頑張りはBさんの強みであり、ほめ・励ましポイントになると思います。

また、Bさんの「回答状況シート」を見てみると、「未来（自分の未来）」の分野にあたる「21 このまま努力を続ければ、自分の未来は明るいと思う」の質問に「はい」と回答しています。先の報告から、退学を考えたり、進路に悩んだり、担任や妹へ不満を抱くなど、悩み多く難しい時期にあるはずのBさん。しかし本人は「努力を続ければ未来は明るい」と感じている。つまり、自分への期待感をしっかりとつ生徒であり、ここもほめポイントでしょう。

では、具体的にはどのようなかかわりが考えられるでしょうか。まずは、保健室はBさんにとて安心して過

ごせる、自分を出せる大切な場になっているので、登校持続のためには今まで以上に積極的な保健室での声かけが重要だと思います。

さらに、「回答状況シート」から「先生」への心証がよいことがわかりますので、先生が他者への橋渡しの役割を担うとよいと思います。「教師用シート」に目を轉じると、「人を思いやる技術」と「状況を正しく判断する技術」が2年次より高くなっているので、この2つの技術に注目したかかわりがよさそうです。

たとえば、Bさんに「私は必要とされている」と思わせるような取り組み、クラスや先生を手伝うなど、人を思いやる場面をつくるのも一案です。KJQの「ワークブック」では「社会生活の技術」一つひとつに合ったワークができるので、Bさんの得点が高かった2つの技術のワークに取り組む際、回答を紹介することでクラスメイトに「Bさんにはこんな一面もあるんだな」「意外とやるな」と強みやよさを知らせるのもお勧めです。「教師用シート」のコメント欄にもあるとおり、Bさんは自分の考えを表現する力に長けています。そういった一面を伸ばすのもよいと思います。

### Bさんの教師用シート

KJQ マトリックス		学年・組		名前		性別		受付No.		学校No.	
		3年	○	組	○	性	女				
(生徒のタイプ)		新規タイプ		遊びタイプ		思切れタイプ		内向タイプ			
B 2年 安心感 この人のエネルギー		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
C 2年 楽しい体験 おもわるる体験		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
D 2年 成績の自信		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
E 2年 社会生活の技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
F 2年 自己理解の技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
G 2年 自分をコントロールする技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
H 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
I 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
J 2年 人とよくやつわる技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
K 2年 人をやさしい技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
L 2年 社会生活の技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
M 2年 自己理解の技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
N 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
O 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
P 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
Q 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
R 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
S 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
T 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
U 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
V 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
W 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
X 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
Y 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
Z 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
AA 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
BB 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
CC 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
DD 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
EE 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
FF 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
GG 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
HH 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
II 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
JJ 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
KK 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
LL 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
MM 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
NN 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
OO 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
PP 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
QQ 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
RR 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
SS 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
TT 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
UU 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
VV 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
WW 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
XX 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
YY 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
ZZ 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
AA 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
BB 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
CC 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
DD 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
EE 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
FF 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
GG 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
HH 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
II 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
JJ 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
KK 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
LL 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
MM 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
OO 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
PP 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
QQ 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
RR 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
UU 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
VV 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
WW 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
XX 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
YY 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
ZZ 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
AA 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
BB 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
CC 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
DD 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
EE 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
FF 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
GG 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
HH 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
II 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
JJ 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
KK 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
LL 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
MM 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
OO 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
PP 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
QQ 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
RR 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
UU 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
VV 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
WW 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
XX 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
YY 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
ZZ 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
AA 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
BB 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
CC 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
DD 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5		1 2 3 4 5			
EE 2年 問題を解決する技術		1 2 3 4									

## 6 藤井先生のケース検討

「どんな要因が今回の結果に結びついているか？」という視点で分析してみます。「回答状況シート」の「家族」分野から、「40 自己の気持ちをわかってくれる家族がいる」に「いいえ」と回答していることも踏まえると、家族にわかってもらえないという思いや、受け入れられていない感覚の両方があるとわかります。「友だち」分野から、クラスの中で浮いている様子もありますが、「51 友だちがケガをしたり急病などのとき、適切な行動をとることができる」に「はい」、「55 体調が悪い友だちがいたら付き添う」に「ややはい」と回答していることから、友だちに寄り添いたいという優しさも見えます。この結果には時期も影響していると感じました。高3は自分を形づくる時期であると同時に、自己と他者の違いに明確に気づく時期。そのため余計にクラスや家庭から浮いていると感じやすいのです。

KJQでは、生徒の行動を支える基盤である「こころの土台」は「こころのエネルギー」と「社会生活の技術」からなると考えます。「こころのエネルギー」の上に「社会生活の技術」があるのですが、Bさんは「こころのエネルギー」が低いので、「社会生活の技術」が揺らぎ、うまく使えていないのではないかと思う。ですからまずはほめポイントを活用し、「こころのエネルギー」を



高めることが大切です。

おそらくBさんはまだ、自分の力や、その力を社会でどう生かすかを自覚的にとらえられていないでしょう。力を自覚できれば「こころのエネルギー」も高まり、進路を考える契機にもなります。「回答状況シート」を見ると、「23 学校の中にゆっくり話してみたい先生がいる」に「はい」と回答しています。先生との会話を通じてBさんにほめポイント、プラスの要因を自覚させるのもよさそうです。教師がBさんの理解者となることができれば、そこが突破口となり、大きな成長も望めるでしょう。

また、自分の意見をしっかりと生徒なので、意見を表明できるクラス内コミュニケーションの場をつくるのもよいと思います。自己表現できればBさんの自信にもなりますし、クラスの凝集性や成熟性の向上にもつながるでしょう。

もう1つが進路の問題です。先ほど吉田先生もおっしゃっていたように、今のままでは退学の可能性や、高校卒業後のBさんにも不安を覚えます。早めに少しずつ進路指導に取り組み、今のよいところを生かしてどんな進路に進めるかという、内面と現実とを踏まえた現実検討の機会を十分にもたせてほしいと思います。そして、自分に合わないと思う場でも能力を発揮する力、強さも身につけられるとよいでしょう。



ケース検討会を終えての感想を吉田先生にお聞きしました  
あたり、改めて当該生徒やクラスの回答状況を確認したり、今までの対応と照らし合わせたり、と大変勉強になりました。まだ手探りの状態で、皆さんの研修のお役に立てるか不安でしたが、加藤・藤井両先生による分析・ご助言だけでなく、フロアの先生方から沢山のアドバイスや励ましのお言葉をいただき、発表させていただいたて良かったと実感できる研修会でした。

## 〈心の基礎〉教育を学ぶ会 第3回研究会 ご案内

日 時 2014年8月21日(木) 13:00~16:30  
参 加 費 無料  
対 象 小学校・中学校・高等学校教育関係者  
会 場 実務教育出版ビル(8階)  
〒163-8671 東京都新宿区新宿1-1-12  
東京メトロ丸ノ内線新宿御苑前駅より徒歩5分  
問合せ先 事務局 株式会社実務教育出版  
担当: 横山 TEL 03-3355-0921  
kjq@jitsumu.co.jp

プログラム \*プログラムは一部変更になる場合があります  
**13:00~13:15 ●開会のあいさつ** 〈心の基礎〉教育とKJQの可能性  
〈心の基礎〉教育を学ぶ会 会長 早稲田大学 教授 菅野 純  
**13:15~15:45 ●ケース検討会**  
○第1部 ガイダンス KJQ結果資料を理解する 岡山大学 准教授 桂川 泰典  
○第2部 実践報告からのケース検討(中学校のケース報告から)  
[ケース報告者] 東洋英和女学院中学部 教諭 上村由紀  
[ケース検討者] 〈心の基礎〉教育を学ぶ会 講師 原口和博  
十文字学園女子大学 准教授 加藤陽子  
**15:45~16:30 ●講演** 児童生徒の内面を見る目を養う 菅野 純  
\*学校心理士資格更新ポイント(B1)

## 課題解決に活用!

# 『KJQマトリックス』～高等学校編～

菅野純先生と加藤陽子先生による対談の最終回は高等学校編です。

学校カウンセリングやスクールカウンセラーという第三者的な視点から見えてきた

“高等学校の今”と「KJQの活用」について語っていただきます。

### いかに多様な自己像をもてるかが、成長のカギ

**菅野：**今回は、高等学校の「今」について考えていきたいと思います。

小・中学校と比べて、高校は等質な子が集まっている環境といえるでしょう。輪切りすることへの賛否はともかく、偏差値や家庭層などある種、輪切りの等質集団からなっています。等質集団に属するということは、成績や家庭環境などが似た子がいて救われる部分がある一方で、似た成員同士間の競争が厳しくなります。高校年代とは、集団の中で「『みんなとは異なる個性をもった自分』という自己イメージをどう保てるか」というテーマが出てくる時でもあるのです。

自己イメージ、つまり「『自分の輪郭』をどれだけはつきりさせながら歩めるか」は、実は『KJQ マトリックス』の重要なテーマの1つです。たとええない姿であったとしても、そこを踏まないと進めませんから、KJQ を使って今の自分を把握する作業は今後の成長を支える意味でも大きな価値をもっていると思います。たとえば「成績が悪い」という現実を突きつけられたとき、成績が悪くても「自分には手芸がある」「音楽的にこれから伸びるだろう」「整理整頓には自信がある」と思えれば乗り越えられます。

菅野 純

かんの じゅん

〈心の基礎〉教育を学ぶ会 会長。  
早稲田大学教授。



つまり、自分のよさや多様性を自分なりに把握しておくことは、生きていく上で欠かせないものなのです。

**加藤：**こんな自分、あんな自分があるという多面的な自己像をもつことができれば、ある部分がダメでもこっちは大丈夫とか、どこかで自分にOKを出せるようになり、自分を保つことにつながりますよね。もし、ある1つの自己像しかもてずにいたら、それを否定されたと感じたときにすごくしんどいだろうなと思います。

**菅野：**確かに、一面的な自己像だとそれで対応できない環境になったときに弱いですし、しんどくならないためにも、やはり子どもたちには多様性のある自己イメージをもってもらいたいと思います。多様な自分を展開してみるとか、自分のあり方に気づく中学段階までの経験は、高校生活で「自分を保つ素」となりそうです。

ここで注意が必要なのは大人のあり方です。第1回の対談「小学校編」でも話題に上がりましたが、子どもが自己確立する際、特に親がわが子のすべてを常にわかっているといった状況では子どものほうはシンプルなパーソナリティになりがちです。大人からは見えない、わからない余地、秘密を残しておくことも時には大切だと思います。

このように考えてみても、「自分にあるいろいろな面に気づき、健康的に使い分けられる」というのは生きていく上で大事なスキルといえそうです。なぜなら、大人になればなるほど、仕事、結婚、子育て、近隣とのつきあいなど多様な環境に対応することが求められるからです。多面性がないままでは多様な環境に向き合えず、苦手意識を抱いたり、不具合が生じたりなど、生きづらさを感じることにつながってしまいます。

## 『KJQマトリックス』は、理解を深めるツールとしても役立つ

菅野：ここまで小・中・高、各年代の「今」を概観してきました。最後に KJQ を利用する意義や活用の仕方について、改めて考えておきたいと思います。

KJQ を開発した経緯として、先ほども挙げた「自分の輪郭をはっきりさせて、より自覚的に人との関係や自分の問題解決力などを学んでほしい」ということのほかに、「子どもたちのもつ力を自己成長に向けさせたい」という願いがあります。同時に「先生方の『児童生徒理解』力をより豊かなものにしてほしい」という先生方への願いも込められています。

では、それらを実現するために、KJQ をどのように活用すればよいでしょうか。

私が勧めたいのが「問題が起きた児童生徒のデータをもう一回見直すこと」です。事が起こると、「あの子があそこで暴れた」など問題に関する情報のみに注目し、せっかく取ったデータに立ち返って活用することが少ないようになります。もう一度見直すことで「その問題は実はデータの○○に表っていたのだな」と学ぶことができ、データの読み方も上手になってきます。さらにその積み重ねが「こういうデータが出ている子は△△というふうになるかもしれない」という気づき、対処など次の予防につながっていくのです。

以前、ある研修会で、学校から見ると申し分のない模範生 A 子さんの KJQ のデータを拝見しました。データにいくつかの問題点が現れていることを指摘したところ、先生方は「え、どうして?」といった反応でした。しかし、その後 A 子さんにいろいろな問題が起り、再度 KJQ のデータに立ち返ることで本質的な問題が見えてきて、指導に役立ちました。このように KJQ には問題行動を予測できる強みもあります。データに立ち返って考える習慣をつけ、強みを十二分に活用してほしいと思います。

加藤：各年代の「今」を論じる中で改めて、KJQ は学校段階に合わせたさまざまな活用ができると感じました。

なかでも大事にしたいと思ったのが「全体」と「個」と



### 加藤陽子

かとう あきこ

『心の基礎』リサーチ 編集長。  
十文字学園女子大学准教授。

いう視点です。問題が起きて個に注目しているとき、『KJQ マトリックス』などを活用してクラスとのかかわりを俯瞰したり、クラス全体に介入したりすることで個が相乗的に動くこともあります。

また、菅野先生のご指摘どおり、成長につれて子どもは多面性をもつようになり、特に小学校高学年以降は子どもの姿が見えにくく感じるようになります。そんなとき、やはりデータに立ち返ることは大事になると感じました。

もう 1 つ感じたのが共有できるというよさです。教師の勘といいますか、先生方一人ひとりは子どもを見るとても正確なセンサーをおもちです。しかし、いざそれを言葉で表現しようとするとなかなかうまく伝えられない、言語化できないといったことも多いのではないかでしょうか。KJQ は、そういった「教師の勘」を可視化し、たとえば「意欲群」「こころのエネルギー」などの共通の言語・指標で共有できるよさもあると思いました。

菅野：教師が気づきを共有し、納得し合うことができれば、そこを起点に素早く対応することもできますよね。

加藤：そう思います。ある教師の「何か変だな?」という気づきも、理解を得られなければ 1 人の先生の気づきにしかなりません。しかし KJQ という共通言語をもてたら、皆で「確かにおかしいね」と確認することができる。皆が確認できるということは早期発見だけでなく、早期対応にもつながるという意味で大事だと思いますね。

菅野：いろいろな問題を抱える子どもたちに対して、先生方は皆「何とかしなきゃならない」と感じています。でも今の子たちは塾や習い事など学校以外の生活が増え、多様化し、子どもの姿が見えづらくなっています。

KJQ は、先生が子どもを知る手がかりにもなりますし、子ども自身が自分を知る手がかりにもなる。いろいろな場面で人間理解、相互理解を深めるのに役立てることができます。

# BOOK GUIDE

研究会のメンバーが学校の先生や生徒におススメしたい本を紹介するコーナーです。今回は綿井雅康先生（十文字学園女子大学教授）が紹介します。



「地元大好き」「自分の普通が世の中の普通」と狭く固く生きている学生たちに、「それって別の世界のお話だよね～」「難しそうでわからない」と感じさせることなく、「生き方の視野」を少しだけ広げたいなあ、と思っていたときに出会った一冊です。学術書でも文学書でもありません。若い世代での階層格差が固定化してしまう原因を分析して話題となった『下流社会』の続編です。副題にあるように「女子」の対極にある「オヤジ・おじさん」の趣味やライフスタイルが、20～30歳代の一般的な女性に浸透しているさま（例えば、山ガール、鉄子、古本女子ほか）を独自調査などから分析しています。本書の趣旨は、女性の高学歴化と男性的な職種・働き方への進出という社会的変化の所産として「オヤジ女子」現象の普遍化を解説することです。しかし、10代の生徒や学生には、思いもよらない趣味やライフスタイルが「普通」なのねを感じてもらえればと思っています。



下流社会 第3章  
オヤジ系女子の時代

三浦展著 光文社新書刊  
定価 799円  
2011年12月発行

## 私のbeing

リレー  
エッセイ  
第4回



「こころのエネルギー」を補給する要素として「楽しい体験」がありますが、その一つとして「目的に何もしない」、つまり「being（ただ、いること）」はとても大事です。人は日頃「doing（何かをすること）」から成り立っていますが、それ以外の一見無駄に見える時間も、実は必要なものなのです。このコーナーでは、研究会のメンバーが日頃どのように「何もしないで」こころのエネルギーを注ぎ足しているのか、紹介してもらいます。第4回は、学校現場で精力的に『癒し』を担う、増田みちよ先生（藤枝市立藤枝中学校養護教諭）です。

私の being は“自然を浴びる”ことです。静岡県の榛南地方に生を受けた私は、小さいころから潮風と強い太陽光を友達にして育ってきました。釣ヶ浦は駿河湾に面した穏やかな海岸、四季折々に海の色や漁が変化して、海は子どもの遊び場でした。顔も身体も真っ黒になるまで海水浴や潮干狩りをしたり砂浜を駆けまわったりして、疲れたところでやっと家に帰り家庭学習もそこそこに眠り込む…といった、幸せで健康的(!?)な生活習慣を身につけました。

あれから数十年を経た今もなお自然に恵まれた田舎ですが、「子ども心」に戻ることのできる海辺を求めて、気がつけば海風や潮騒のささやきの中に浸っていることは少なくありません。この頃では、海辺を吹く風に風力タービンが回転して風力発電をし、照りつける太陽は太陽光パネルがキャッチして太陽光発電をして有効活用されていますが、私は自然の中に応援団を感じところで「こころのエネルギー」が蓄積されています。

## 編集後記



〈心の基礎〉研究から開発された『KJQマトリックス』は、かなりの方に認知され普及しつつあります。しかし、このツールも事後の指導が万全であればこそ、生きるもののです。これからも皆さんと一緒に多くの事例検討会等の研修をしていきたいと思います。

（事務局 萩地）

第5号は2015年1月発行予定です。